

第2学年 国語科 学習案内

教科の目標

◎中学校の国語科では次のことを目標としています。

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを目指す。

◎中学3年間の国語科では…

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

☆ 次の「学習計画」「評価の観点と方法」をもとに、目標の達成を目指します。

評価の観点と方法

観点別評価の項目		評価の観点	評価の方法
知識・技能		文字や語句についての知識や技能が身につけている。	- 漢字の小テスト・文法 - 定期テストの言語事項問題 - 書写等
思考・判断・表現	話すこと・聞くこと	論路の展開などに注意して聞くことができる。話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。互いの立場や考えを尊重しながら、話し合うことができる。	- 授業中の発言や聞き取り - 話し合いや発表 - 定期テストの聞き取り問題等
	書くこと	わかりやすく伝わるように文章の構成や展開を工夫することができる。表現の工夫とその効果をふまえて文章を書くことができる。	- ノートやワークシートへの記入 - 詩・作文・感想文 - 定期テストの記述問題等
	読むこと	文章を比較して読み、構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。詩歌や小説などを読み、批評したり、考えたことを伝え合ったりできる。文章を読み知識や経験と結びつけ、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。	- ノートやワークシートの内容 - 音読・朗読・暗唱 - 定期テストの読解問題等
主体的に学習に取り組む態度		授業に意欲的に参加し、豊かな言語感覚を身につけようとしている。	- 授業への積極的な参加 - 提出物 - 国語を学ぼうとする姿勢等

第2学年 国語科 学習計画			
期	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	虹の足	詩の表現を味わい、身のまわりの意外な発見に気づく。
		いろいろな立場や考えをふまえる	異なる立場や考えを取り上げて、ニュースやできごとの紹介をする。
		タオル	描写や言動から、主人公の気持ちの変化を読み取る。
	5	【文法の小窓1】活用のない自立語	活用のない自立語のはたらきを理解する。
		新聞の投書を書く	「構成の型」をもちいて、文章を書く。
		課題を設定して伝える	資料や機器などを用いて自分の考えをわかりやすく伝える。
		日本の花火の楽しみ	筆者のものの見方や考え方を捉え、「日本の花火の魅力」についてまとめる。
		水の山 富士山	富士山の恵みについて、筆者の考えを捉え、自分の考えをまとめる。
	6	行書で書こう（硬筆横書き）	基本点画の筆使いや文字の組み立て方、字形の整え方を正しく理解する。 行書に調和する仮名の筆使い、漢字と仮名の大きさや行の中心を理解する。
		敬語	敬語の特徴や働きについて知る。
		手紙・メールを整える	敬語の働きについて理解し話や文章の中で使う。
		夢を跳ぶ	図書館やインターネットの情報を活用して課題について調べる。
		【言葉の小窓2】話し言葉と書き言葉	話し言葉と書き言葉の、それぞれの特徴を捉える。
	7	相違点を明確にして聞く	情報の表し方を捉え、論理の展開に注意しながら聞く。
		SNS から自由になるために	SNS の性質を知り、インターネットでの表現のあり方を考える。
		脚本で動きを説明する	小説と脚本を構成する情報を整理し、それぞれの効果について考える。
		【漢字の広場1】まちがえやすい漢字	似た形や間違えやすい漢字についての理解を深める。
2 学 期	9	夏の葬列	主人公の心の動きをとらえ、人間としての生き方を考える。
		持続可能な未来を創るために	持続可能な社会の実現に向けて課題を共有し、行動する。
		短歌の味わい	詩情を味わい、自らの感性を磨く。短歌を読み味わう。
		根拠をもとに意見文を書く	根拠をもとに推論し、考えの理由づけを示して意見文を書く。
	10	紙の建築	事例と主張を関連づけて読み、筆者の行動とそれを支える考え方を捉える。
		【漢字の広場2】漢字の成り立ち	漢字の成り立ちについての理解を深める。
		敦盛の最期	言葉の響きやリズムに注意し、古典の世界を楽しむ。
		随筆の味わい	古典に表れたものの見方や考え方から、筆者の思いを想像する。
		坊っちゃん	作品・作家についての資料を参考に、近代の名作に親しむ。
	11	ガイアの知性	論理的な展開の文章を読み取り、内容を受け止める。
		【漢字の広場3】漢字の多義性	漢字の多義性についての理解を深める。
		映像作品の表現を考える	絵コンテを構成する情報を整理し、それぞれの効果について考える。
		【文法の小窓2】活用のある自立語	活用のある自立語の働きについて理解する。
	12	確かな根拠をもとに意見を聞く	論理の意見と根拠など情報と情報との関係について理解する。
		書き初めを書こう	文字の大きさや字間・行の中心などを理解して、配列よく書く。
		【言葉と社会2】社会生活と言語コミュニケーション	社会生活を円滑にするための言語コミュニケーションについて知る。
3 学 期	1	走れメロス	登場人物の心情や言動から、人間の生き方について考える。
		【文法の小窓3】付属語のいろいろ	付属語の役割とはたらきを知る。
		学ぶ力	ものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつ。
	2	よりよい結論を導く討論をする	相手の立場に立って、推論しながら意見を述べる。
		孔子の言葉	漢文の響きやリズムに注意して読み、古典の世界を楽しむ。
		【言葉の小窓3】類義語・対義語・多義語・同音語	日常生活で使う言葉を、いつもと違った視点から捉え直す。
	3	【漢字の広場4】	同音の漢字についての理解を深める。
		「連作ショートショート」書く 豚	物語の構成や展開を意識して書き、表現の工夫や効果について考える。 詩の構成や展開を踏まえ、詩の世界を豊かに想像する。

◎学習計画は、実態によって変更になることがあります。

第2学年 社会科 学習案内

教科の目標

◎中学校の社会科では次のことを目標としています。

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者としての必要な公民的資質の基礎を養う。

◎社会科の内容

地理的分野	歴史的分野
- 世界や日本の地理的認識を深めるために基礎となる知識や調べ方、学び方を身につけ、作業をする力や考え方を伸ばします。 - 資料を活用する力、地理的な見方や考え方を伸ばす学習を中心に行い、学び方を学ぶ学習が充実できるようにします。	- 歴史上の出来事について事項を厳選し、時代区分を大きくとって内容を構成し、我が国の歴史の大きな流れを理解できるようにします。 - 学び方や調べ方を身につけ、多面的・多角的な見方や考え方ができるような学習にします。

☆本校ではこれらの目標を次の「学習計画」「評価の観点・評価の方法」をもとに達成を目指します。

評価の観点と方法

観点別評価の項目	評価の観点	評価の方法
社会的な知識・技能	我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	- 授業での取り組み - ノート・ワークシート - 定期テスト・単元テスト - さまざまな提出物 - パフォーマンステスト
社会的な思考・判断・表現	社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて、選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	- 授業での取り組み - ノート・ワークシート - 定期テスト・単元テスト - さまざまな提出物 - パフォーマンステスト
主体的に学習に取り組む態度	社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通じて、涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	- 授業への取り組み - 定期テスト・単元テスト - さまざまな提出物 - パフォーマンステスト

第2学年 社会科 学習計画

期	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4 5	- 日本の姿 - 世界から見た日本のすがた - 日本の自然環境 - 日本の人口	世界的視野と日本全体の視野に立ってさまざまな面からとらえた日本の国土の特色を理解するとともに、地域間を比較し関連付けて地域的特色を明らかにすることができる。
	6 7	- 日本の資源・エネルギーと環境 - 世界と日本の結びつき - 身近な地域の調査	- 身近な地域に対する関心を高め、地域の特色をとらえる視点や方法などを理解する。 - 地形図などの地図やグラフなどの資料を読み取り、活用することができる。
2 学 期	8	- 近世の日本 - ヨーロッパ人との出会いと全国統一	近世社会の成立とその後の社会の変化、政治の展開を世界の歴史を背景に理解する。
	9		
	10	- 日本の諸地域 - 九州地方 - 中国・四国地方 - 近畿地方	- 日本のそれぞれの地域の特色を地理的事象と関連付けて理解する。 - 環境問題や環境保全を中核として九州地方の特色を理解する。 - 人口や都市・村落を中核として中国・四国地方の特色を理解する。 - 歴史的背景を中核として近畿地方の特色を理解する。 - 産業を中核として中部地方の特色を理解する。 - 他地域との結びつきを中核として関東地方の特色を理解する。 - 生活・文化を中核として東北地方の特色を理解する。 - 自然環境を中核として北海道地方の特色を理解する。
	11	- 中部地方 - 関東地方	
	12	- 東北地方 - 北海道地方	
3 学 期	1	- 近世の日本 - 江戸幕府の成立と鎖国 - 産業の発達と幕府政治の動き	- 近世社会の成立とその後の社会の変化、政治の展開を世界の歴史を背景に理解する。 - 身近な地域の歴史的事象との関連で、産業、交通の発展、町人や地方の文化を理解する。
	2	- 近代の日本 - 欧米の進出と日本の開国	- 欧米諸国のアジア進出と日本開国の歴史を理解する。 - 明治政府の諸改革により、近代国家の基礎ができたことを理解する。 - 立憲国家成立の流れを理解する。
	3	明治維新	急速な近代化を遂げた日本の国際的地位の向上と国民生活の変化を理解する。

第2学年 数学科 学習案内

教科の目標

◎中学校の数学科では次のことを目標としています。

量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則の理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得し、事象を数理的に考察する能力を高めるとともに、数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを進んで活用する態度を育てる。

◎これらの内容を具体的に3つに分けると…

A. 数と式 (式の計算・連立方程式)

文字を用いた式について、目的に応じて計算したり変形したりする能力を伸ばして理解し、それを用いる能力を養う。

B. 図形 (平行と合同・図形の性質)

基本的な平面図形の性質について、観察、操作や実験を通して理解を深めるとともに、図形の性質の考察における数学的な推論の意義と方法とを理解し、推論の過程を的確に表現する能力を養う。

C. 数量関係 (1次関数・確率)

具体的な事象を調べることを通して、1次関数について理解するとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を養う。また、具体的な事象についての観察や実験を通して、確率の考え方の基礎を培う。

☆ 次の「学習計画」「評価の観点と方法」をもとに、目標の達成を目指します。

評価の観点と方法

観点別評価の項目	評価の観点	評価の方法
数学的な知識・技能	知識及び技能の習得状況について評価します。また、それらを関連付けたり活用する中で概念等として理解したり、技能を習得したりしているかについて評価します。	I 授業態度 授業には集中して取り組みましょう。忘れ物なども厳禁です。
数学的な思考・判断・表現	知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身につけているかどうかを評価します。	II 発表 解いた問題の答えや考え方を、みんなの前で積極的に発表してください。
主体的に学習に取り組む態度	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みの中で、自分の学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価します。	III 問題集・ノート 必要に応じ提出してもらいます。提出期限を守りましょう。
		IV 宿題・テスト より理解を深めるために宿題を出します。また、理解度を知るために定期的にテストを行います。

期	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	式の計算	○1年生で学習した文字式について、その内容を深めていきます。 ・簡単な式の加法、減法の計算や、式に数をかける計算や、式どうしの乗法、除法の計算ができるようにします。
	5	・式の計算 ・文字式の利用	・事象の中にある数量関係を見つけ出し、それを文字式で表現したり、意味することを読み取ったり、また目的に応じてきまりに従って変形したりする方法を学びます。
	6	連立方程式	○1つの文字について解く方程式を発展させて、より便利な連立方程式を学習します。
	7	・連立方程式 ・連立方程式の利用	・連立方程式を解く方法（加減法、代入法）について学び、いろいろな連立方程式を解けるようにします。 ・連立方程式を利用していろいろな問題を解いていきます。
2 学 期	8	1次関数	○2つの数量の関係について、比例の内容を発展させて考えていきます。
	9	・1次関数とグラフ ・1次関数と方程式 ・1次関数の利用	・1次関数と呼ばれる関係について、その性質や式が $y=ax+b$ になること、そしてグラフが直線になることについて学習します。 ・2元1次方程式が1次関数を表す式と同じであることを学習します。
	10		
	11	図形の調べ方 ・平行と合同 ・証明	○基本的な平面図形についてその性質について観察、操作、実験を通して学びます。 ・平行線や角の性質について学び、それを基にして様々な図形の性質について考えていきます。 ・三角形の合同条件を学習します。 ・基本的な性質を利用して、論理的に筋道を立てて推論を行い、新しい性質を確かめる方法（証明）について学習します。
3 学 期	12		
	1	図形の性質と証明 ・三角形 ・四角形	○いろいろな平面図形の性質を、三角形の合同条件などを基にして確かめていきます。 ・二等辺三角形や正三角形について、今まで学習したことからを根拠にして、その性質を考察したり見つけ出したりします。 ・平行四辺形について、その性質と平行四辺形であることを確かめる条件について考え学習していきます。
	2		
	3	確率 ・確率の数と確率 箱ひげ図とデータの活用	○身のまわりにある確率を見いだしたり、いろいろな事象で確率を考えていきます。 ・確率の考え方を理解し、観察や実験を通したり、計算で確率を求めていきます。 ○箱ひげ図の見方を理解し、複数の集団のデータや分布に着目し全体の傾向を考察できるようにする。

第2学年 理科 学習案内

教科の目標

◎中学校の理科では次のことを目標としています。

自然に対する関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に調べる能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。

◎中学2年生の理科では…

単 元	内 容
1 化学変化と原子・分子 2 動物の生活と生物の変遷 3 天気とその変化 4 電気の世界	1 化学変化についての観察・実験を行い、化合や分解など量的な関係について学習します。 2 身近な動物についての観察・実験を行い、動物の体のつくりと働きを理解します。 3 気象の観測を通して、天気の変化の規則性に気づき、気象現象の起こる仕組みについての認識を深めます。 4 電流と電圧との関係および電流の働きについて学びます。

☆ 次の「学習計画」「評価の観点と方法」をもとに、目標の達成を目指します。

評価の観点と方法

観点別評価の項目	評価の観点	評価の方法
知識及び技能	- 自然事象に対する概念や原理・法則の基本的な理解 - 科学的探究についての基本的な理解 - 探究のために必要な観察・実験等の基本的な技能	定期テストなどで知識・理解の程度を調べます。予習、復習にしっかり取り組みましょう。 観察・実験のレポートを提出してもらいます。きちんとまとめて締め切りを守りましょう。 ・実験への取り組み（発言、態度、技能等） ・実験プリント、ノート（グラフ等） ・定期テスト
思考力、判断力、表現力等	- 自然事象の中に問題を見いだして見通しをもって課題や仮説を設定する力 - 計画を立て、観察・実験する力 - 得られた結果を分析して解釈するなど、科学的に探究する力と科学的な根拠を基に表現する力 - 探究の過程における妥当性を検討するなど総合的に振り返る力	調べたこと（思考）、気づいたこと（判断）、わかったことは積極的に発表・まとめ（表現）をしましょう。 ・授業への取り組み（発言、態度、思考等） ・実験プリント、ノート（考察等） ・定期テスト ・レポート
主体的に学習に取り組む態度	- 自然を敬い、自然事象に進んでかわる態度 - 粘り強く挑戦する態度 - 日常生活との関連、科学することの面白さや有用性の気付き - 科学的根拠に基づき判断する態度 - 小学校で身に付けた問題解決の力などを活用しようとする態度	授業に積極的に参加しましょう。忘れ物に気をつけ、レポートやプリントに粘り強く取り組みましょう。 ・授業への取り組み（発言、態度等） ・提出物（ノート、ワーク、プリント等） ・レポート

第2学年 理科 学習計画			
期	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	化学変化と原子・分子	- 化学変化についての観察、実験を通して、化合、分解などにおける物質の変化やその量的な関係について理解する。 - これらの事象を原子、分子のモデルと関連づける見方や考え方を養い、物質のなりたちや化学変化の仕組みにたいする興味関心を高める。
	5	①物質の成り立ち	
	6	②物質の表し方	
	7	③さまざまな化学変化 ④化学変化と物質の質量	
2 学 期	8	生物の体のつくりとはたらき	- 生物の体は細胞からできていることを、観察を通して理解する。また、動物などについて観察、実験を通し、動物の体のつくりと働きを理解する。 - 消化液や酵素のはたらきを知り、栄養分の吸収について学習する。 - セキツイ動物を特徴の違いから、グループ分けをする。 - さまざまな動物の比較から分析・解釈をおこない、生物の変遷について理解する。 - 自然環境を保全し尊重しようとする意欲と態度を育てる。
	9	①生物の体をつくるもの	
	10	②植物の体のつくりとはたらき	
	11	③動物の体のつくりとはたらき	
	12	④動物の行動のしくみ	
		地球の大気と天気の変化	
3 学 期	1	①地球をとり巻く大気の様子	- 気象観測やデータの収集を継続的にを行い、その観測記録や資料をもとに、気象要素と天気の変化の関係を見出す。 - 天気の変化が主として大気中の水の状態変化と大気の動きによって引き起こされることを理解する。 - 気象現象の起こるしくみと規則性についての認識を深める。
	2	②大気中の水の変化	
	3	③天気の変化と大気の動き	
		④大気の動きと日本の四季	
3 学 期	1	電気の世界	- 電流のはたらきや磁石の性質をもとに、電流回路についての観察、実験を行う。 - 実験を通して、電流と電圧との関係および電流のはたらきについて理解する。 - 静電気にかかわる観察、実験を行い、静電気の基本的なはたらきを理解する。
	2	①電流の性質	
	3	②電流の正体 ③電流と磁界	

第2学年 グローバル・スタディ科 学習案内

教科の目標

◎中学校のグローバル・スタディ科では次のことを目標としています。

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。

◎グローバル・スタディ科第2学年のコミュニケーション能力のGOAL

- (1) 相手（話し手、書き手）の伝えたいことを正しく理解したうえで、自分の考えや思いを伝えることができる。

(2) 日本や日本の文化に誇りを持ち、自分の言葉で発信することができる。

【学習のしかた】

- ① まずは授業を大切に！…授業に集中し、積極的に発言したり、深く考えたり、意欲的に活動しましょう。
- ② 授業後に、家庭でしっかり復習して、力がついているかを確認しましょう。
- ③ 正しい姿勢で、模範をよく聞いて正しい発音で、何度も声に出して英語を読みましょう。
- ④ 単語や表現を、適切な発音で読みながら、何度も書いて練習して覚えましょう。
- ⑤ 出された宿題、課題は、計画的に取り組み、期限を守って必ず出しましょう。

☆ 次の「学習計画」「評価の観点と方法」をもとに、目標の達成を目指します。

評価の観点と方法

観点別評価の項目	評価の観点	評価の方法
知識・技能	・言語やその運用についての知識(文法・単語)が身に付いている。 ・使用する言語材料の提示なしに、事実や自分の考えなどを話したり、書いたりすることができる技能が身に付いている。 ・音声の特徴を捉え話することができる。 ・話されたり書かれたりする文章等を読んだりして、その内容を捉える技能が身に付いている。	・小テスト ・パフォーマンステスト ・リスニングテスト ・ワークシート ・定期テスト など
思考・判断・表現	・自分の考えや気持ちなど、伝えたいことを自分で考えて文を構成し、話したり書いたりして表現したり伝え合ったりしている。 ・まとまりのある英文を聞いたり、読んだりして、場面、状況に応じて、概要、要点などを捉えている。	・パフォーマンステスト ・スピーキングテスト ・リスニングテスト ・ワークシート ・小テスト ・定期テスト など
主体的に学習に取り組む態度	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 ・言語活動への取組に関して見通しを立てたり振り返ったりして自らの学習を自覚的に捉えている。	・授業での取り組み ・振り返りシート、自己評価シート ・コミュニケーション活動の取組み ・パフォーマンステスト など

第2学年のコミュニケーション学習の到達目標 (CAN -DO リスト)

聞くこと	読むこと	話すこと【やり取り】	話すこと【発表】	書くこと
①少し長めの議論でも、なじみのある内容であれば、その要点を理解することができる。 ②買い物や道案内などの場面で必要な情報を聞き取り、行動できる。 ③話し手自身のことや、学校などのなじみのあることについて、話されている概要や要点を捉えることができる。	①短い物語や伝記、場所や文化の紹介などの説明文の内容を理解することができる。 ②挿絵や写真を参考にしながら、簡単な語を用いて書かれた物語のあらすじなどを正しく読み取ることができる。 ③日常的なトピックを扱った話の内容や書き手の意見の概要などを捉えることができる。	①買い物や身近な話題について、簡単な英語で、意見や気持ちをやりとりしたり、いろいろな工夫をして話を続けたりすることができる。 ②聞いたり読んだりしたことなどについて、問答したり意見を述べ合ったりすることができる。	①日本や、日本の伝統、文化に関して、まとまった英文で発表することができる。 ②なじみのあるトピックに関して、考えが伝わるように話の構成を考え、適切な音声で発表することができる。	①書き方のきまりに従って、書くことができる。 ②自分の考えが読み手に正しく伝わるように、文章構成に注意して文章を書くことができる。 ③読んだことをもとに、話の概要や主人公の心情、自分の感想を、辞書などを用いて書くことができる。

学習計画

学期	月	単元名 ○数字は Program 番号 ☆は主に ALT との授業テーマ	学習の内容・活動
1 学 期	4	① Classroom English ① New Start ☆Making New School Trip Plans (宿泊学習旅行計画をたてよう) ●Step 1 簡単な表現で言いかえよう	○ 未来の表現 ○ enjoy + 動名詞
	5	② Koshien Project in Africa ☆Let's Make the Sport Event Successful (スポーツイベントを成功させよう) ●Power-Up 1 天気予報を聞こう ●Step 2 魅力を伝えるためのコツを知ろう	○ 接続詞 that ○ 接続詞 when ○ 接続詞 if
	6	③ Taste of Culture ☆International Food Festival (世界屋台フードフェスティバル)	○ 不定詞(名詞的用法、副詞的用法、形容詞的用法)
	7	●Our Project 4 海外でヒットするラーメンのCMを作ろう	○海外でヒットするラーメンのCMのプレゼンテーション活動
2 学 期	8	●Reading 1 The Three Dolls	○「The Three Dolls」を読み、自分の考えなどを書き、伝え合う活動
	9	●Power-Up 2 電話をかけよう	
	10	④ Leave Only Footprints ☆As a Member of the Town Square Meeting (タウンスクウェアミーティングの一員として)	○ 感情の原因を表す不定詞 ○ 義務、命令
	11	●Power-Up 3 レストランで食事をしよう ●Step 3 わかりやすい見出しをつけよう ⑤ Work Experience ☆Work Experience (職業体験や将来の夢のスピーチを聞いて、質問や感想を述べよう)	○ 疑問詞+不定詞 ○ look+形容詞 ○ SVOOの働き
	12	⑥ High-Tech Nature ☆What Can We Do to Save Energy? (エネルギーを節約するために) ●Power-Up 4 メールで近況報告をしよう ●Step 4 相手にわかりやすい説明をしよう ●Our Project 5 日本のおすすめスポットを紹介しよう ●Reading 2 Friendship beyond Time and Borders	○ 比較級、最上級 ○人物紹介のグループ発表 ○読んだ記事を書くレポート活動
3	1	⑦ Unique Animals ☆Which Do You Like Better, an Aquarium or a Zoo? (水族館と動物園どちらの方が好き?)	○ like ~ better than ... ○ like ~ the best

	2	⑧ A Hope for Lasting Peace ☆As a Billboard for Japan (ニュージーランドの生徒に日本の魅力を伝えよう)	○ teach + 人 + how to ~
	3	●Power-Up 5 飛行機のアナウンスをしよう ●Step 5 説得力のある説明をしよう ●Reading 3 Apollo 13	○ 受け身 ○ スピーチ活動 ○ アポロ13号についての英文要約文を書く活動

CAN-DO リスト

Program 1 Making New School Trip Plans [Conversation PT] (話すこと[やり取り])

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
A 3つができています。	□ 予定やこれからすることについて言えるようになった。	□ 理由を示しながら、簡単な語句や文を用いて、より良い旅行プランを立てた。	□ 簡単な語句や文を用いて、より良い旅行プランを立てようとした。
B 1つ以上ができています。	□ 「～な時」や「もし～なら」という内容が話せるようになった。	□ 自分の考えや友達の意見に対して感じた事を、簡単な英語を使って伝えた。	□ 自分の考えや友達の意見に対して、考えた事や感じた事を、簡単な英語を使って伝えようとした。
C どれもできていない。	□ 友達の意見に対し、簡単な語句や文を用いて、質問したり、答えたりする技能を身に付けることができた。	□ 友達の発表内容に対して、質問をした。	□ 友達の発表内容に対して質問をしようとした。

Program 2 The International Youth Meeting [Conversation PT] (話すこと[発表])

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
A 全てができています。	□ 義務や命令、必要性についての言い方が分かった。	□ 友達の意見を踏まえて自分の意見や考えをまとめられた。	□ 友達の意見を踏まえて自分の意見や考えをまとめようとした。
B 1つ以上ができています。	□ SDGsについて自分の考えを言えるようになった。	□ 自分の考えや意見の理由を伝えられた。	□ 自分の考えや意見の理由を伝えようとした。
C どれもできていない。		□ SDGsについて、事実や意見などを伝えられた。	□ SDGsについて、事実や意見などを伝えようとした。

Program 3 Taste of Culture [Conversation PT] (話すこと[発表])

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
A 3つができています。	□ 不定詞を用いて、自分が食べたい食べ物を説明していた。	□ 友人と協力して各国の食べ物の特徴について事実や自分の考えなどを整理し、伝えた。	□ 友人と協力して各国の食べ物の特徴について事実や自分の考えなどを整理し、伝えようとした。
B 1つ以上ができています。	□ 各国の食べ物の特徴に関するコメントができるようになった。	□ 理由を添えて、相手に伝わりやすく伝えた。	□ 理由を添えて、相手に伝わりやすく伝えようとしていた。
C どれもできていない。	□ 食べてみたいと思った食べ物について簡単な語句や文を用いて質問することができるようになった。	□ 各国の食べ物への理解を深めるための質問をした。	□ 各国の食べ物への理解を深めるための質問をしようとしていた。

Reading 1 Writing a Report [Writing PT] (書くこと)

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
A 3つができています。	□ つなぎ言葉 (First, Next, Last, because) の使い方が分かった。	□ 内容に沿った質問を書いた。	□ 内容に沿った質問を書こうとした。
B 1つ以上ができています。	□ つなぎ言葉をつかって物語について書いた。	□ 質問に対する答えを書いていた。	□ 質問に対する答えを書こうとした。
C どれもできていない。	□ 自分の意見を正しく書けた。	□ 本文を読み、大切な部分を伝えたり、自分の意見を伝えたりするレポートを書いた。	□ 本文を読み、大切な部分を伝えたり、自分の意見を伝えたりするレポートを書こうとした。

Program 4 Introducing Japan [Conversation PT] (話すこと[やり取り])

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
--	---------	------------	-----------------

A 3つができています。	☐ 物事を比べる表現について理解することができた。	☐ 日本の世界に誇れるものについて、理由を示しながら説明することができた。	☐ 日本の世界に誇れるものについて、理由を示しながら説明しようとした。
B 1つ以上ができています。	☐ 物事を比べる表現を用いて、自分の意見を伝えることができた。	☐ 友達の意見や質問に対する自分の考えを伝えることができた。	☐ 友達の意見や質問に対する自分の考えを伝えようとした。
C どれもできていない。	☐ 日本の世界に誇れるものについて説明できた。	☐ 友達の意見を踏まえて、質問することができた。	☐ 友達の意見を踏まえて、質問しようとした。

Program 5 Work Experience [Conversation PT] (話すこと[やり取り])

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
A 3つができています。	☐ 「～の仕方・方法」という言い方が分かった。	☐ スピーチに対して簡単な感想を言えた。	☐ スピーチに対して簡単な感想を言おうとした。
B 1つ以上ができています。	☐ スピーチに関係のあるコメントを言えた。	☐ スピーカーにアドバイスすることができた。	☐ スピーカーにアドバイスしようとした。
C どれもできていない。	☐ スピーチに対する理解を深めるための質問ができた。	☐ スピーチから学んだことについて述べられた。	☐ スピーチから学んだことについて述べようとした。

Program 6 A New ALT Will Come! [Presentation PT] (話すこと[発表])

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
A 3つができています。	☐ 不定詞を用いて、自分が食べたい食べ物を説明していた。	☐ 友人と協力して各国の食べ物の特徴について事実や自分の考えなどを整理し、伝えた。	☐ 友人と協力して各国の食べ物の特徴について事実や自分の考えなどを整理し、伝えようとした。
B 1つ以上ができています。	☐ 各国の食べ物の特色に関するコメントができるようになった。	☐ 理由を添えて、相手に伝わりやすく伝えた。	☐ 理由を添えて、相手に伝わりやすく伝えようとしていた。
C どれもできていない。	☐ 食べてみたいと思った食べ物について簡単な語句や文を用いて質問することができるようになった。	☐ 各国の食べ物への理解を深めるための質問をした。	☐ 各国の食べ物への理解を深めるための質問をしようとしていた。

Reading 2 Writing a Report 2 [Writing PT] (書くこと)

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
A 全てができています。	☐ 「～されている」「～された」と伝えることができたようになった。	☐ 日本各地の歴史や文化について、事実や自分の意見を伝えた。	☐ 日本各地の歴史や文化について、事実や自分の意見を伝えようとした。
B 1つ以上ができています。	☐ 紹介する場所の情報をわかりやすく伝える技能を身に付けた。	☐ 日本のことを絵や写真を使って、ALT にわかりやすく紹介した。	☐ 日本のことを絵や写真を使って、ALT にわかりやすく紹介しようとした。
C どれもできていない。		☐ 紹介した日本各地の場所へ行く際のアドバイスを伝えた。	☐ 紹介した日本各地の場所へ行く際のアドバイスを伝えようとした。

Program 7 A Gateway to Japan [Conversation PT] (話すこと[やり取り])

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
A 全てができています。	☐ 「すでに～してしまった」「～したことがある」を伝えることができた。	☐ 議論を深めるために必要な質問ができた。	☐ 議論を深めるために必要な質問をしようとした。
B 1つ以上ができています。	☐ 自分の考えと理由を述べられた。	☐ 議論の中で、理由とともに、誰かの意見に賛成したり、反対したりできた。	☐ 議論の中で、理由とともに、誰かの意見に賛成したり、反対したりしようとした。
C どれもできていない。		☐ 議論を結論に導くために、効果的な意見を述べられた。	☐ 議論を結論に導くために、効果的な意見を述べようとした。

Program 8 A Hope for Lasting Peace [Conversation PT] (話すこと[やり取り])

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
A 3つができています。	☐ これまでにしてきたことを伝えたり、尋ねたりする方法がわかった。	☐ 議論を深めるために必要な質問ができた。	☐ 議論を深めるために必要な質問をしようとした。
B 1つ以上ができています。	☐ 問題の状況を具体的に説明できた。	☐ 議論の中で、理由とともに、誰かの意見に賛成したり、反対したりできた。	☐ 議論の中で、理由とともに、誰かの意見に賛成したり、反対したりしようとした。
C どれもできていない。	☐ 問題の原因をわかりやすく説明できた。	☐ 議論を結論に導くために、効果的な意見を述べられた。	☐ 議論を結論に導くために、効果的な意見を述べようとした。

Reading 3 Writing a Report [Writing PT] (書くこと)

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
A 3つができている。	☐ 本文の内容を理解した。 ☐ 本文から重要な事項をキーワードとして抜き出した。	☐ 本文の重要な表現を抜き出して人物を表す文を書いた。 ☐ 本文の表現を言い換えて、人物を表す文を書いた。	☐ 本文の重要な表現を抜き出して人物を表す文を書こうとしていた。 ☐ 本文の表現を言い換えて、人物を表す文を書こうとしていた。
B 1つ以上できている。	☐ 本文中の表現を用いて、本文の内容を要約した。	☐ 本文を読んで、代名詞を用いてキーワードを論理的につなげ、人物を表す文を書いた。	☐ 本文を読んで、代名詞を用いてキーワードを論理的につなげ、人物を表す文を書こうとしていた。
C どれもできていない。			

第2学年 音楽科 学習案内

◎中学校の音楽科では次のことを目標としています。

- ・表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽分野と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指します。

◎中学2年生の音楽科では…

表現・鑑賞
・曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにします。 ・曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにします。 ・主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養います。

☆本校ではこれらの目標を次の「学習計画」「評価の観点・評価の方法」をもとに達成を目指します。

白幡中の音楽科はこんな授業です！

◎混声合唱を目指し、さまざまな歌を楽しく歌っていきます。

◎DVD、CDなどを活用し、音楽鑑賞を楽しんで学習していきます。

◎合唱祭への取り組みでは、クラスみんなで協力しながら練習し、合唱を作り上げていきます。

◎授業持ち物

- ・教科書
- ・アルトリコーダー
- ・合唱曲集
- ・ファイル（各種プリント保存用）など

◎アルトリコーダーの演奏にも取り組みます。

観点別評価の項目	評価の観点	評価の方法
知識・技能	曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解し、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けられている。	・実技テスト ・定期テスト
思考・判断・表現	曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽の評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができる。	・創作発表 ・実技テスト ・授業中の活動
主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度が養われている。	・授業への取り組み（持ち物、あいさつ） ・授業中の姿勢、発言 ・学習記録カード、各種提出物（ワークシート等）

第2学年 音楽科 学習計画

期	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	さあ、歌おう！ ・歌 「校歌」 「語り合おう」 「生命ははばたくとき」 など	・歌う姿勢、口の形、呼吸の仕方など基礎的な技能を学びながら楽しく歌う。 ・歌詞の内容、曲想を感じ取り言葉のリズムや旋律を意識しながら表現を工夫しながら歌う。
	5	演奏会にでかけよう ・音楽鑑賞 「交響曲第5番」 「小フーガ」 など	・音楽のよさや美しさを味わい、音楽の多様性を感じ取る。 ・音楽の特徴の背景となる、文化・歴史、他の芸術とも関連付けて鑑賞する。 ・音楽の構成や楽曲の形式を学び、オーケストラのさまざまな楽器の音色や表現を味わいながら聴く。
	6	楽器演奏のレパートリーを増やそう 「きらきら星」 「浜辺の歌」 「威風堂々」など	・アルトリコーダーの基礎的な演奏法を学びながら、楽しく楽器演奏をする。 ・指使い、タンギング、サミングなど演奏法を正確に覚える。 ・アルトリコーダーのきれいな音色の出し方を工夫しながら演奏する ※アルトリコーダーは、1年を通して毎時間少しずつ授業を進めていきます。
	7	日本音楽に親しもう ・鑑賞 雅楽「越天楽」	・日本の伝統的な音楽や芸能に触れ、音楽の多様さやそれぞれの良さを味わう。
2 学 期	9		
	10	混声合唱に親しもう ・合唱祭へ向けてクラスで選んだ合唱曲の取り組み ・学年合唱	合唱祭の取り組み ・「パートリーダー」「指揮者」「伴奏者」を中心に進んでクラス合唱活動自主的に取り組む。 ・良い歌声にするために、姿勢、呼吸（腹式呼吸）、発声に気を配りながら練習する。 ・合唱の美しいハーモニーを響かせる練習をみんなで協力して練習する。 ・合唱祭を目指し、並び方を工夫し、お互いのパートを聴きあいながら心をつなげて歌おう！ ・お互いの演奏を鑑賞しあうことで様々な合唱曲に触れ、良さを味わう。
	11		
	12	いろいろな音楽に親しもう ・創作 平調子の音楽をつくろう ・音楽鑑賞 「ボレロ」 ・音楽鑑賞 郷土の音楽や芸能 ・器楽 箏曲を演奏しよう	・1年間の学習のまとめとして、音楽を構成する要素やその働きを感じ取りながら作曲に取り組む。 ・オーケストラによる音楽表現の良さや美しさを感じ取りながら聞く。 ・日本の伝統音楽の魅力を感じ取る。 ・日本の伝統的な楽器や声による表現の豊かさを味わう。 ・声の音色や拍の表れ方、楽器との合わせ方に注目して聴く。 ・実際に箏を演奏し、基礎的な演奏技能を身に着けながら和楽器の音色を味わう。
3 学 期	1		
	2		
	3	・歌唱 「浜辺の歌」 「早春賦」 「花の街」	・日本で長く歌われている歌曲に親しむ。 ・歌詞の内容や、曲の背景との関わりを理解する。

第2学年 美術科 学習案内

教科の目標

◎中学校の美術科では次のことを目標としています。

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のように身につける。

- (1) 対象や事象をとらえる造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 自然の造形や美術作品などの造形的な美しさ、表現の意図と工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の動きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

◎美術科の内容

表 現	鑑 賞
・感じたこと、考えたこと、夢・想像や感情などの心の世界をもとに主題を生み出し、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。 ・構成や装飾、伝える・使う目的や条件をもとに用いる場面や環境、社会とのかかわりなどから主題を生み出し、美的感覚を働かせて、調和のとれと美しさなどから総合的に考え、表現の構想を練る。 ・発想や構成したものをもとに、材料や用具の特性をいかし、意図に応じて自分の表現方法を追求して、制作の順序などを統合的に考えながら創造的に見通しをもって表す。	・美術作品などの造形的なよさや美しさ、または、目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方、感じ方を深めること。 ・身近な環境の中にみられる造形的な美しさなどを感じ取り、安らぎや自然との共生などの視点から生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を深めること。 ・日本の美術作品や受け継がれてきた伝統や文化のよさや美しさを感じ取り愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違、共通点に気づき、国際理解や美術文化について考え、見方や感じ方を深める。
共通事項「知識」 ・形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。 ・造形的な特徴などをもとに、全体のイメージや作風などでとらえることを理解すること。	

☆ 次の「学習計画」「評価の観点と方法」をもとに、目標の達成を目指します。

評価の観点と方法

観点別評価の項目	評価の観点	評価の方法
知識・技能	用具の使い方が表現したい内容に応じて工夫できること。表現技法を作品に生かせること。	・用具を適切に扱えること。(鉛筆・絵具・筆・ナイフ等) ・それぞれの画材の表現技法を効果的に生かせる。 ・奥行きや立体感が表現できる。量感や質感を表現できる。 ・基本的な描画法の習得 ・用具の準備や後片付けの仕方が適切等。 ☆定期試験は行わない。作品そのものに、学んだ技法で表現できているか、プレゼンカードや振り返り・鑑賞プリントの内容が適切に表現できているかで評価する。
思考・判断・表現	課題の意図を理解すること。数多くアイデアスケッチをする、何度も書き直して構想を練ることなど。作業手順を理解し、計画的な制作の構想を練ることができる。技法を工夫して表現すること。	・課題を理解し、アイデアを出す。 ・制作の構想をねる(作業手順を理解しているか) ・アイデアスケッチまたは下書きで表したいものを描く。 ・配色の構想を練る。 ・構図の工夫と形の観察力。 ・完成作品の構想が下書きでできる。 ・制作過程の構想ができる。 ☆「知識・技能」の☆参照。
主体的に学習に取り組む態度	制作や鑑賞を通して、美術的な関心や制作への集中力。工夫、試行錯誤を繰り返す、完成まで根気よく制作すること。必要な資料や用具の準備状況など。	・制作に必要な資料や用具の準備。特に作品のアイデア、下書きのための参考資料は自分で用意することができる。 ・制作中の集中度。課題への積極的な興味・関心度。 ・用具の準備、片づけ ・提出物の状況 ・観賞資料への関心

第2学年 美術科 学習計画

学期	月	学習内容	学習のねらい
1 学 期	4	・オリエンテーション ・教科書から学ぶ（鑑賞）	・2 学年として、あらためて、美術を学習する意義を理解しよう。美術は何のためにあるのか、個人や社会の中で、どんな役に立っているのかを考えよう。
	5	・「イメージを追い求めて」（鑑賞）	・抽象作品を鑑賞し、造形的な特徴などから何かに見立てたり、心情などと関連付けたりしながらイメージで捉えることを理解しよう。 ・複数の視点から対象を深く見つめたり、本質について想像したりして主題を生み出そう。
	6	・「心のイメージを形に」（絵画・立体）	・心で捉えた感情やイメージなどから主題を生み出そう。 ・主題を基に形や色彩、創造的な攻勢を工夫するなどして表現の構想を練ろう。 ・材料や用具の特性を生かして表現方法を追求しながら絵や立体に表そう。 ・互いの作品を鑑賞し合い、主題をどう表したいのかや表現の意図や工夫などについて話し合おう。
	7		
2 学 期	8	・「ひと目で伝えるための工夫」（デザイン・工芸）	・身の回りにあるサインやピクトグラムを調べ、伝えたい情報が多くの人に伝わるための工夫について考えよう。 ・校内や身近な場所に活用できるサインやマークを基に主体を生み出し、アイデアスケッチをしよう。 ・ひと目で伝わり、場所や目的に合ったデザインであるか互いに批判し合い、アイデアを再検討しよう。 ・主題を基に材料や用具の特性を生かし、見通しをもって制作しよう。 ・互いの作品を鑑賞し合い、よさや美しさ、表現の工夫などについて話し合おう。
	9		
	10	・「季節を楽しむ心」（デザイン・鑑賞）	・和菓子や扇子などの自然や季節感を取り入れた日本の伝統美術や工芸品のよさや特性について理解しよう。 ・自然のよさや季節感を取り入れた日本の伝統や使う場面を基に主題を生み出し、形や色彩、材料などの効果を考えアイデアスケッチしよう。 ・主題を基に材料や用具の特性を生かし、見通しを持って表そう。 ・互いの作品をや作家の作品を鑑賞し合い、よさや美しさ、表現の工夫などについて話し合おう。
	11		
	12		
3 学 期	1	・アートカード（鑑賞）	・日本国内にある5館の国立美術館の作品アートカードを使って、美術館所蔵の様々な作品に触れ、様々な方法で鑑賞しよう。
	2	・「水と筆を操る」（絵画）	・墨などの性質や技法に触れながら、表したいものやイメージから主題を生み出そう。 ・主題を基に、濃淡や線などの効果を考えて造形的な表現の構想を練り、工夫して表そう。 ・互いの作品や作家の作品を鑑賞し合い、よさや美しさ、表現の工夫などについて話し合おう。
	3	・みんなの作品展（鑑賞） ・振り返り	・今年度制作したすべての作品を、クラスの中で鑑賞しあおう。友だちの作品の素敵などところを見たり、友だちの制作の意図を聞いたり、学び合おう。

第2学年 保健体育科 学習案内

◎ 中学校の保健体育科では次のことを目標としています。

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって運動を親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

〈体育分野〉

- (1) 運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身につけるようにする。
- (2) 運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。

〈保健分野〉

- (1) 個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身につけるようにする。
- (2) 健康についての自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

☆ 次の「学習計画」「評価の観点と方法」をもとに、目標の達成を目指します。

評価の観点と方法

観点別評価の項目	評価の観点	評価の方法
知識・技能	- 各種の運動の特性や技能の構造やルールを理解しているか評価します。 - 各種の運動技能が身に付いているか、体力が向上しているかを評価します。記録、技能の向上を見ます。	- 授業への取り組み - 学習カード - 定期テスト - 技能テスト
思考・判断・表現	自己の能力に適した課題を見つけ、それに対して工夫ができているか、体育的な考えをしているか、またそれを表現することができるかを評価します。	- 学習カード - 授業への取り組み - 技能テスト
主体的に学習に取り組む態度	- 学習に積極的に取り組むとともに、作戦などの話し合いに参加しようとしているか評価します。 - マナーを守ったり相手の健闘を認めたりしてフェアなプレイを守ろうとしているか評価します。	- 授業への取り組み - 学習カード

第2学年 保健体育科 学習計画

学期	月	学習内容	学習のねらい
1 学期	4	・集団行動	・集団行動を通して安全な授業を進めるための約束事を身に付ける。
	5	・新体力テスト ・体づくり運動 ・陸上競技 （短距離走、リレー）	・各種目の体力テストを通し、自分の課題を見つけ克服する態度を身に付ける。 ・自己の能力に適した課題を持ち、技能を高めたり記録の向上の喜びを味わう。
	6	・体育祭	・行事に向け、クラスで団結する。 ・生涯にわたり積極的に運動に親しむ資質や能力を身に付ける。
	7	・水泳 ・保健	・各泳法を身に付け、続けて長く泳いだり、速く泳いだりする。
2 学期	8	・体づくり運動	・基本的な技能を身に付け、試合の運営ができるようにする。生涯にわたり積極的に運動に親しむ資質や能力を身に付ける。 ・自己の能力に適した課題を持ち、技能を高めたり記録の向上の喜びを味わう。 ・自己に適したペースを維持して、一定の距離を走り通し、タイムを短縮したり、競争したりできるようにする。 ・伝統的な行動の仕方や基本動作、対人技能を身に付ける。
	9	・球技Ⅰ （ネット型） ・陸上競技 （走り幅跳び・ハードル走）	
	10	・陸上競技 （長距離走）	
	11	（種目選択） ・武道 柔道・剣道	
	12	・保健	
3 学期	1	・ダンス ・器械運動 （マット運動・跳び箱運動）	・リズムに乗って仲間と自由に踊ることを楽しむ。 ・今できる技を楽しんだり、よりよくできるようにする。できない技の練習の仕方を工夫したり、仲間と協力し合う態度を身に付ける。
	2	・球技Ⅱ （ゴール型）	・チームの課題や自己の能力に適した課題を見付け、攻防の作戦を立て勝敗を競い合う過程や結果に楽しさや喜びを味わう。
	3	・体育理論 ・保健	
通年		・保健	・「傷害の防止」 ・「健康な生活と疾病の予防」
		・体育理論	・「運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」

第2学年 技術・家庭＜技術分野＞ 学習案内

◎技術分野の学習目標

- ・生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- ・生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。
- ・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

◎技術分野の内容 _____部分が2年生で学習する内容

A. 材料と加工の技術 (1)生活や産業の中で利用されている技術 (2)材料と加工法 (3)材料と加工に関する技術を利用した製作品の設計・製作	B. 生物育成の技術 <u>(1)生物の生育環境と育成技術</u> <u>(2)生物育成に関する技術を利用した栽培</u>
C. エネルギー変換の技術 <u>(1)エネルギー変換機器の仕組みと保守点検</u> <u>(2)エネルギー変換に関する技術を活用した製作品の設計・製作</u>	D. 情報の技術 <u>(1)情報通信ネットワークと情報モラル</u> <u>(2)デジタル作品の設計・製作</u> <u>(3)プログラムによる計測・制御</u>

☆ 次の「学習計画」「評価の観点と方法」をもとに、目標の達成を目指します。

	評価の観点	評価の方法
知識・技能	生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。	授業態度・提出物・レポート ・定期テスト ・作品 ・ワークシート、レポート
思考・判断・表現	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	授業態度・提出物・レポート ・作品 ・定期テスト ・ワークシート、レポート ・授業の取組状況
主体的に学習に取り組む態度	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている	作品・実技・提出物・レポート ・作品 ・ワークシート、レポート ・授業の取組状況

第2学年 技術・家庭科（技術分野） 学習計画

学期	月	学習内容	学習のねらい
1学期	4	＜生物育成＞	・生物育成の意味とその目的、生活における役割を知り、生物の特性と育成技術のかかわりを考える。 ・栽培条件や土壌、肥料について理解し、作物を栽培することができる。
	5	・生物の育成	
	6	（実習：作物の栽培）	
	7	＜エネルギー変換＞ ・わたしたちの生活とエネルギー変換	
2学期	8	・機器の安全な利用と保守点検	・電気機器の定格について知り、安全な利用方法について考える。 ・機器の手入れや点検について知り、事故防止の方法について身につける。 ・電源の種類や特徴を知り、その利用について考える。 ・電気を変換して利用するためのしくみや特徴を理解する。 ・電気製品の構成と回路について理解する。 ・工具を適切に使用し、安全・正確に作業ができる。 ・技術の適切な評価と活用について考える。
	9	・電気エネルギーの利用	
	10	（実習：防災ラジオの製作） 電気回路と電子部品 製作 ・エネルギー変換技術の評価・活用	
	11		
	12		
3学期	1	＜情報＞ ・情報通信ネットワークと情報セキュリティ	・情報通信ネットワークのしくみを知り、コンピュータの基本的な操作ができる。 ・安全に情報を利用するためのしくみを知る。 ・エクセル、ワードを利用した作品の制作ができる。 ・情報を扱う際のモラルの必要性を理解し、情報の適切な利用について考える。 ・知的財産の保護について知り、適切に利用する方法について考える。
	2	・デジタル作品の制作 ・情報モラルと知的財産	
	3		

第2学年 技術・家庭＜家庭分野＞ 学習案内

教科の目標

◎中学校の技術・家庭「家庭分野」では次のことを目標としています。

衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識を身につけるとともに、家庭生活を大切にすることを学び、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。

◎家庭分野の内容 部分が2年生で学習する内容

A. 家族・家庭生活

- (1) 自分の成長と家族
- (2) 幼児の生活と家族
- (3) 家族・家庭や地域との関わり
- (4) 家族・家庭生活についての課題と実践

B. 衣食住の生活

- (1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴
- (2) 中学生に必要な栄養を満たす食事
- (3) 日常食の調理と地域の食文化
- (4) 衣服の選択と手入れ
- (5) 生活を豊かにするための布を用いた製作
- (6) 住居の機能と安全な住まい方
- (7) 衣食住の生活についての課題と実践

C. 消費生活・環境

- (1) 金銭の管理と購入
- (2) 消費者の権利と責任
- (3) 消費生活・環境についての課題と実践

☆ 次の「学習計画」「評価の観点と方法」をもとに、目標の達成を目指します。

評価の観点と方法

観点別評価の項目	評価の観点	評価の方法
知識・技能	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	<u>授業態度・提出物・レポート</u> ・定期テスト ・作品 ・ワークシート、レポート
思考・判断・表現	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	<u>授業態度・提出物・レポート</u> ・作品 ・定期テスト ・ワークシート、レポート ・授業の取組状況
主体的に学習に取り組む態度	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	<u>作品・実技・提出物・レポート</u> ・作品 ・ワークシート、レポート ・授業の取組状況

第2学年 家庭科 学習計画			
期	月	学習内容	学習のねらい
1 学期	4	・日常食の調理の基礎 ・地域の食品と食文化	・簡単な日常食の調理ができるようにします。(肉・野菜) ・食品や調理器具の安全な扱い方と調理技能を身につけます。 ・地域の食材を生かした調理の工夫について学習します。 ・伝統的な食文化について学習します。
	5		
	6	・住まいのはたらきを考えよう ・家族と共に住む間取りを選ぼう ・快適な住まいにしよう	・人が住まう住居の機能を考えます。 ・安全で快適な室内環境の整え方を知り、よりよい住まい方の工夫ができるようにします。
	7		
2 学期	8	衣生活・住生活と自立 ・わたしたちと衣生活 ・衣服のはたらきを考えよう ・衣服の選択と活用について衣服の ・材料について知ろう ・衣服の手入れと補修をしよう	・衣服と社会生活とのかかわりを考え、目的に応じた着方や個性を生かす着方を工夫できるようにします。 ・日常着の計画的な活用、適切な選択、手入れと補修ができるようにします。
	9		
	10		
	11		
	12		
3 学期	1	・被服製作をしよう	・作品作りを通して日常着の手入れができるようにします。 ・工夫した作品を、自分の力で丁寧に最後まで仕上げ、生活に役立てます。
	2		
	3		